

ドイツ西部の都市デュッセルドルフ周辺における 地域の実情に応じて運営される「多世代の家」

THE REGIONAL CONTEXT OF 'MEHRGENERATIONENHAUS' IN THE VICINITY OF DÜSSELDORF, A CITY IN THE WEST OF GERMANY

○内田琉奈^{*1}, 加藤悠介^{*2}, 佐藤栄治^{*3}
Runa UCHIDA, Yusuke KATO, Eiji SATOH

This paper reports on four cases of “Mergenerationenhaus” centred on Düsseldorf, North Rhine-Westphalia, and the neighboring state of Rhineland-Palatinate. It outlines how each facility operates, the distinct programs they offer, considering the specific characteristics of their respective regions, and facility planning. These cases play a crucial role in addressing local social issues by providing inclusive spaces where people of multi-generations, religions, and backgrounds can interact. Each case demonstrates a tailored approach to regional needs, offering distinctive programs that promote social cohesion, community engagement, and mutual support among diverse groups.

Keywords : Mehrgenerationenhaus, prevention of isolation, Immigrant and Refugee Assistance

多世代の家, 孤立防止, 移民・難民支援

1 はじめに

1.1 本稿の概要

本稿では、ドイツ連邦プログラムとして取り組まれている「Mehrgenerationenhaus（以下：多世代の家）」プロジェクトのうち、デュッセルドルフを州都とするノルトライン＝ヴェストファーレン州の3事例（事例①、②、③）と、それに隣接する州であるラインラント＝プファルツ州の1事例（事例④）の計4事例について報告し、地域の実情に応じた運営やプログラムについて整理する。

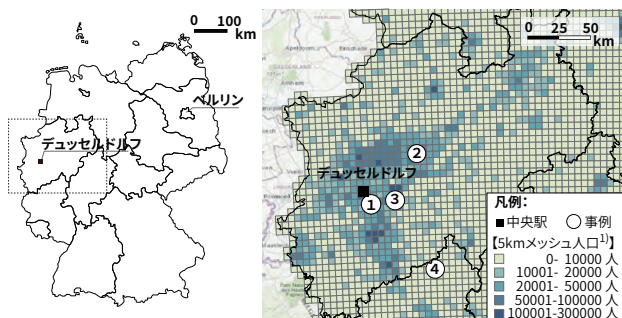


図1. 事例の位置関係

1.2 調査地域の概要

デュッセルドルフは、ドイツ西部に位置するノルトライン＝ヴェストファーレン州の州都であり、人口65万人（2023年現在）²⁾を擁するドイツ主要都市の一つである。ルール工業地帯の要所として経済的に発展し、日本企業をはじめとした多くの海外企業が進出している。日本人が多く住んでいるという特徴があり、欧州では لندن、パリに次いで3番目に大きな日本人コミュニティが形成されている。

今回調査した多世代の家は、それぞれ多様な地域の特徴を持っている。図1に事例の位置関係を示す。デュッセルドルフ郊外の住宅地に位置するもの（事例①）や、デュッセルドルフに次いで人口が多い、工業地帯ドルトムントの西部に位置するもの（事例②）、ルール地方近くの工業都市で、金属加工の工芸で栄えた街に位置するもの（事例③）、デュッセルドルフから南東へ80kmほど離れた高齢化の進む過疎地域に位置するもの（事例④）である。

^{*1} 宇都宮大学大学院地域創生科学研究科社会デザイン科学専攻

^{*2} 金城学院大学生活環境学部 教授・博士（学術）

^{*3} 宇都宮大学地域デザイン科学部 教授・博士（工学）

^{*1} Grad., School of Regional Development and Creativity, Utsunomiya Univ.

^{*2} Prof., College of Human Life and Environment, Kinjo Gakuin Univ., Ph.D.

^{*3} Prof., School of Regional Design, Utsunomiya Univ., Ph.D.

2. 事例① SOS-Kinderdorf Düsseldorf

訪問日：2024 年 9 月 10 日

担当者：クローセ氏（多世代の家コーディネーター）

2.1 施設概要

青少年保護に注力している民間児童支援組織 SOS-Kinderdorf（SOS 子どもの村）が運営している施設であり、周辺施設と併せて地域の集約的拠点として整備されている。施設の位置関係を図 2 に示す。これらの施設が位置するガラート地区では、教育への需要や高い失業率などの課題があり、それらに対応するよう多世代の家機能と幼稚園機能を併せ持つ SOS-Kinderdorf 棟が 2021 年に新設された。多世代の家の建物は、開かれた集まりの場を意味するオープントレフの事業として、カフェやスポーツルーム、セラピー室などで構成されており、SOS-Kinderdorf の活動と多世代の家の活動が、互いに完全に独立しているのではなく、融合しながら活動が行われている。SOS-Kinderdorf 棟の道路を挟んだ向かいには、ファミリーホーム、子ども一時預かり所、青少年センターの建物や安価なりサイクルショップがある。

2.2 多世代の家加入の経緯

1994 年より、多世代の家の活動の前身として、“Mehrgenerationenhaus” という名称で共同保育を行う地域の母親同士の集まりが運営されていた。その後活動に SOS-Kinderdorf が合流し、2014 年に連邦プロジェクトである多世代の家に加入する運びとなった。多世代の家への加入で得られる予算 5 万ユーロは、SOS-Kinderdorf の規模からすると小さいが、当団体が非営利団体として種々なプログラムを運営していく上で、予算確保先を複数持つことは重要である。担当者によると、多世代の家に加入したことにより、①（それまで子ども中心で家族単位だけの広がりであったのに対して）高齢者が来やすくなったこと、②オープントレフでの食事提供を安くできること、といった効果があった、とのことであった。

2.3 建物の歴史

当地域における SOS-Kinderdorf の活動自体は 15 年前から行われており、小さな建物から始まった。当時の建物は現在でも使われている。新設された SOS-Kinderdorf 棟がある南側の敷地は、元々デュッセルドルフが所有する公園がある場所であった。建物の建設にあたって、公園が無くなることに対して地域住民からの反対の声も上がっていたが、周辺にいくつか新しい公園ができたことと、SOS-Kinderdorf の活動内容や建物の

表 1. SOS-kinderdorf の概要

所在地	Matthias-Erzberger-Straße 24 40595 Düsseldorf
施設種別	幼稚園
運営主体	SOS-Kinderdorf
関連主体	教会のセンター（青少年センター、ユーゲントルフ）
所有	SOS-Kinderdorf, 2021 年新築+既存
建築構造	RC 造
施設規模	地上 2 階, 地下 1 階
延床面積	800m ² （多世代の家）
運営開始	2004 年（※母体となる組織に SOS が 2009 年に合流）
MGH 加入時期	2014 年

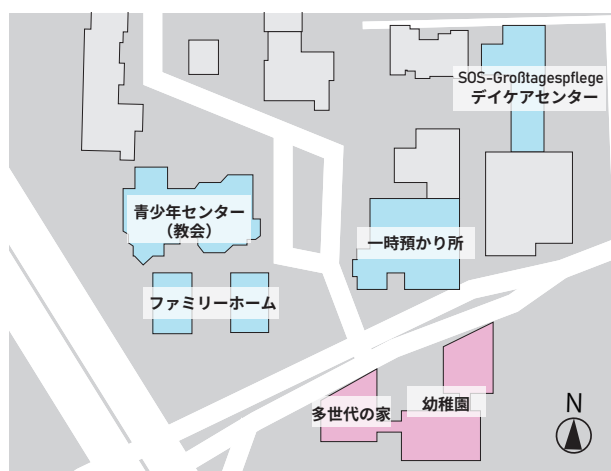


図 2. 周辺施設位置関係



図 3. 外観写真（右が多世代の家）



図 4. オープントレフ

用途が地域住民にポジティブに受け止められたことにより、建設が受け入れられた。建設費はSOS-Kinderdorfが全額出しており、SOS-Kinderdorfが運営する数ある施設のなかでも大規模なプロジェクトとなっている。

2.4 運営・プログラム概要

多世代の家のプログラムで使われている建物は、メインのSOS-Kinderdorfと、SOS-Großtagespflegeの2棟である。以前は青少年センターでも多世代の家のプログラムが行われていたが、土日が使用できないことと、人員が不足していることを理由に現在は利用されていない。

45の多世代の家プログラムが実施されている。午前は子どもと親世代に、午後は高齢者世代に対するプログラムが行われることが多いが、特に子どもと家族のための幅広いプログラムが多く用意されている（表2）。地域の子どもや親が抱える課題に対して、多世代の家を窓口として、周辺ファミリーホームや青少年センターと連携して対応している。また、失業率の高い地区に多世代の家があることから、運営指針の基本として失業等から生じる人々の孤立を防止することをあげている。具体的にはカフェでは、調理のポストを2人分設けているが、調理の資格を求めている。それは、資格を持たない人が社会的に孤立しがちであるための対応である。

2.5 今後の展望・課題等

担当者によると、施設が大きくなったことにより、高等教育を受けた専門家が必要になってきているとのこと

表 2. プログラム内容³⁾

●月曜日	●木曜日
- ベビーマッサージ - フラフープコース - 親子グループ - 親子料理教室 - みんなのフィットネス - 女性の交流会（料理、お菓子作り）	- シニアのフィットネス - 親子遊び - 遊び交流グループ（小さな子ども） - シニアクラブ（ビンゴ等） - 森探検 - フィクミク プレイグループ（ポーランドの家庭を持つ父母対象） - 子どもパン教室
●火曜日	●金曜日
- 幼児の森探検 - コウノトリの巣（6週間以上の乳幼児対象。早期発達に関する情報交換や交流） - 親子遊び（歌や工作、オーブントレフ利用） - 親子料理教室 - 助産師相談 - ウクライナ交流会 - 編み物の集い - グループダンス	- アラブ女性のための討論会 - 青少年指導者のための研修 - ヨガコース - 中世の小人たち（中世の体験。料理や裁縫、木工等） - 中世交流会（集い、仲間づくり）
●水曜日	●その他サービス
- 親子遊び - シニアの午後（ゲームや歌、雑談等） - 絵画の巣（親子対象） - リラク্সコース - フラフープコース - ドイツ語・トルコ語会話サークル	- 高齢者デイケアサービス - 託児 - チャイルドケア - 子供向けリサイクルショップ - フリーマーケット - 死別を経験した人へのサポート - 乳がん患者女性へのサポート

であった。また、予算的に現状の規模感が限界ではあるものの、青少年からシニアまでの多世代ボランティアを含めて運営している現在の状況は、多世代の家の Motto にも合った規模感であると感じると述べていた。

3. 事例 ② Mehrgenerationenhaus Mütterzentrum Dortmund

訪問日：2024 年 9 月 10 日

担当者：アンケ・ピーペンシュタク氏

3.1 施設概要

当施設は移民が増加傾向にあるドルトムント市にあり、駅（S-bahn）からのアクセスが良好な交通利便性の高い立地であるため、ドルトムント市域の幅広い地域の人々から利用されている。ライン工業地帯に位置するこの地域は、かつては有数の炭鉱の街であった。1986 年に Mütterzentrum Dortmund e.V.^{註1)} が設立され、1990 年代まで別の建物で活動した後に、2000 年に現在の場所へと移った。子育てをする母親をターゲットにした活動がメインとなっている。子育てのみならず「女性に労働環境を」という思想のもと、子育て後の再就職の斡旋などにも取り組んでいる。また青少年局が隣接しており、協力関係にある。青少年局の職員が、施設で母子に関する講演を行ったり、夏祭りのワークショップを一緒にに行ったりしている。また、施設で問題を抱えていると思われる親子が来た際に、青年局の担当者に相談し、様子を見に来てもらうこともある。

担当者によると、ドルトムント市は比較的子育てに関するサポートが充実しており、当施設は悩みを抱える親子の最初の窓口としても機能している。

3.2 多世代の家加入の経緯

多世代の家には最初期である 2006 年から加入している。社会局経由で多世代の家の情報を知り、加入した。加入以前から既にオープンハウス^{註2)}として多世代向けの事業を行っていたことが加入に至った理由である。多

表 3. Mütterzentrum Dortmund の概要

所在地	Hospitalstraße 6 44149 Dortmund
施設種別	マザーズセンター
運営主体	Mütterzentrum Dortmund e.V.
関連主体	青少年局（※協力関係、一緒の運営体ではない）
所有	Mütterzentrum Dortmund e.V., 病院だったものを改築
建築構造	混構造（煉瓦造＋木造屋根）
施設規模	地上 2 階、地下 1 階
延床面積	200m ² （多世代の家※申請時）
運営開始	1986 年（※現在の場所 2000 年～）
MGH 加入時期	2006 年



図 5. 外観写真



図 6. オープントレフ



図 7. 子ども達の遊び場となっている庭
表 4. プログラム内容⁴⁾

●サポート内容

- ・オープン保育所
- ・希望する祖父母の受け入れ
- ・家族に関するワークショップ
- ・移住経験のある大人のための語学プログラム
- ・リベアカフェ（修理カフェ）

●コース・グループ

- ・親子グループ（PEKiP^{註3)} コース、幼児グループ）
- ・テーマ別ミーティング
 - 一人親家庭
 - 双子を持つ親
 - 精神的な問題を抱える人 等
- ・高齢者のためのおはなしカフェ
- ・エクササイズ（ZUMBA、ヨガ等）

●その他

- ・音楽学校” Da Capo al Fine”
- ・助産師プログラム
- ・定期的なフリーマーケット
- ・家族のお祝い事などでの施設利用

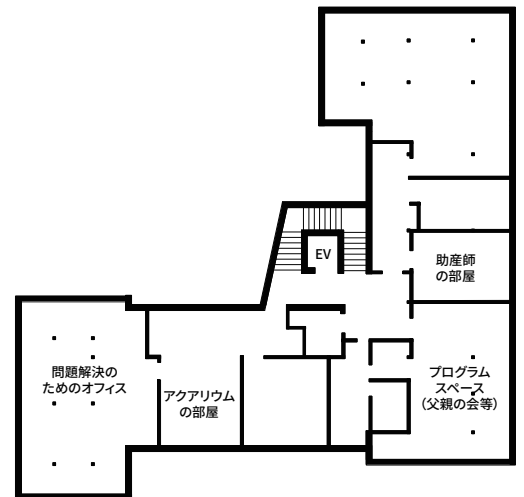
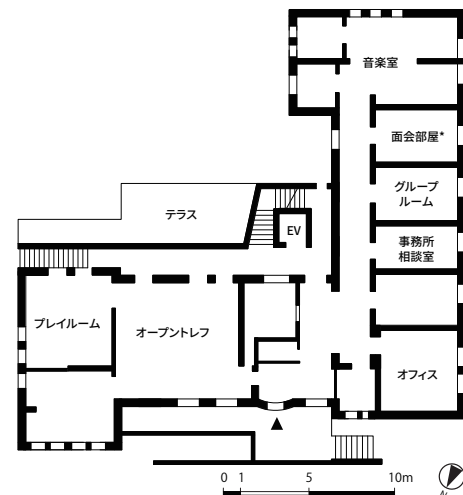


図 8. 2 階平面図



(面会部屋*…離婚した両親が仲介者のもと面会する部屋)

図 9. 1 階平面図

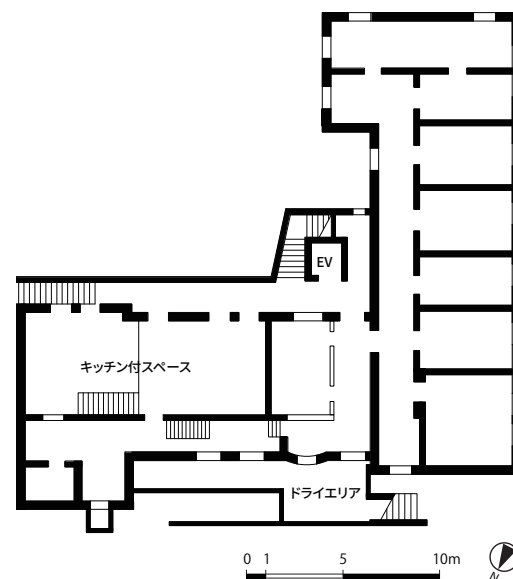


図 10. 地下平面図

世代の家に加入したことにより、高齢者の方が気軽に訪れられるようになり、ボランティアの担い手としても参加しやすくなった（孫と一緒に来る人など、元々高齢者がいなかったわけではないが、子や孫がいない高齢者も来やすくなった）。

3.3 建物の歴史

敷地は元々病院であり、建物は小規模病棟であったものを改築して使用している。ドルトムント市がコンペを実施して改築を行った。現在も建物のオーナーは市であり、家賃は無償で、行政の支援を受けて運営されている。

3.4 運営・プログラム概要

運営的側面をみると、施設全体でスタッフは16～20人程所属している。多世代の家の活動に携わっているのは、施設長、プロジェクト運営者3人、利用者から寄せられた問題を解決する人（失業、物件探し等）、カフェ（オープントレフ）のシェフ、他スタッフの2人である。多世代の家の補助金は、2名のスタッフの給料、語学講座の教材費や講師謝礼に充てられている。

主なプログラムを表4に示す。子どもとその母親を対象としたプログラムが中心であるが、父親が参加するものも用意されている。また、お年寄りが語る会も開催しており、子どもと接点が無かった高齢者が子どもと接点を持てるようなプログラムも実施されている。

3.5 今後の展望・課題等

担当者によると、施設の名前を変更することを検討しているとのことであった。現在の名前は、かつて母親同士が助け合いを行う場であったことから来ているが、現在は父親のためのプログラムが実施されているように、男性が来ることも歓迎している。ドイツでは依然として女性が子育ての主導権を持つことが多いが、男性の子育て参加を促すためにも、施設名の変更を検討している。また、年少の子どもと年長の子どもの棲み分けの観点か

ら、室の大きさが不十分であることが課題であるとのことであった。年少の子どもの安全性を確保しつつ、年長の子どもが楽しく過ごせるように気を遣っており、現在は時間帯で年齢ごとに遊び方を変えるかたちで対応している。

4. 事例③ Der Neue Lindenhof Mehrgenerationenhaus

訪問日：2024年9月11日

担当者：フリードリッヒ氏（多世代の家コーディネーター）、他



図 11. 外観写真

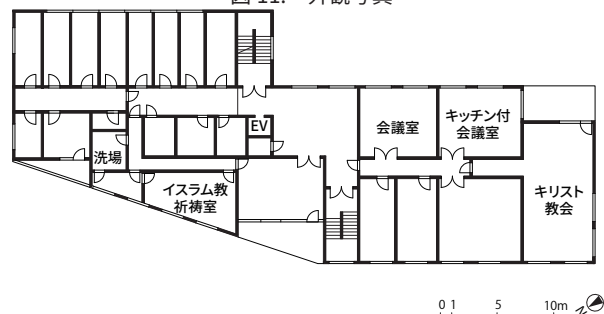


図 12. 3階平面図

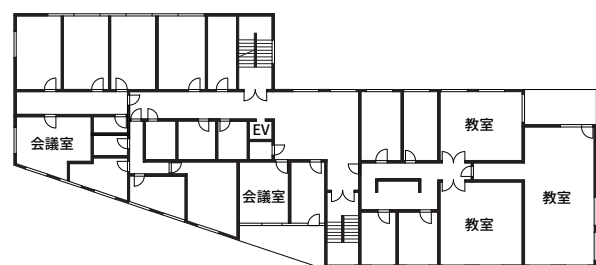


図 13. 2階平面図

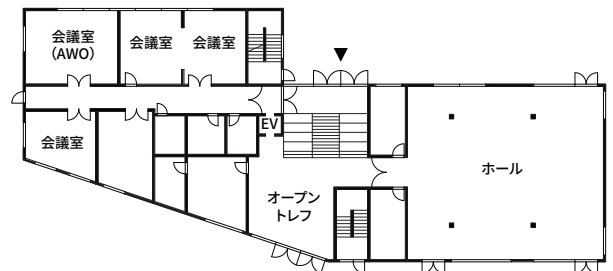


図 14. 1階平面図

表 5. Der Neue Lindenhof の概要

所在地	Honsberger Strasse 38 42857 Remscheid
施設種別	コミュニティセンター
運営主体	stadtteil e.V.
関連主体	awo, 総合社会局, プロテスタント, カトリック, ムスリム
所有	ゲヴォバ（建設会社＋市）, 2014年新築
建築構造	RC 造
施設規模	地上3階
延床面積	-
運営開始	1996年（stadtteil e.V. 設立） ※旧 Lidenhof：1980年代～, awo が主体
MGH 加入時期	2007年

4.1 施設概要

当施設は、かつて金属加工で栄えた職人街であるレムシャイド市中心部のホンスベルク地区に位置している。ホンスベルク地区は人口の半数以上が移民を背景に持つ人々で構成され、その内65%がトルコ系移民という特徴がある。一つの建物の中に、多世代の家事業を行う主体である stadtteil e.V.、労働者福祉協会 AWO、市の総合社会局、プロテスタント、カトリック、ムスリム各教会の6団体が共存している。多世代の家の活動のほかにも、難民支援や就業支援なども行っている。多世代の家の活動では、芸術家が開催するプロジェクトやフードシェアリング、地域のお祭り（子どものカーニバル）の運営など施設内に留まらず周辺地域に活動を展開し、まちづくりに貢献している。コンビネーションを大切にしており、国・宗教・所属の関係なく人々が集まり、出会う場づくりに取り組んでいる。7つの機関から支援を受けており、ノルトライン＝ヴェストファーレン州の都市再開発モデルプロジェクトとして推進されている。

4.2 多世代の家加入の経緯

6団体のうち、stadtteil e.V. が主体となって2007年に多世代の家に参加した。stadtteil e.V. は1996年に3人で設立された団体であり、当施設を拠点として児童・青少年福祉、地区社会事業、移住サービス・相談、異文化交流、難民支援、家族教育、高齢者ケアの分野で活動を行っている⁵⁾。多世代の家の活動を行う上では、以下9つの目標を掲げている。

- ①外国人（移民）の統合
- ②民主化の支援
- ③環境への配慮
- ④人々が自分自身で人生を選択できるようにすること
- ⑤専門家のサポートを受けられるように支援すること
- ⑥どんな世代ともコンタクトをとること
- ⑦どんな世代でも教育を受けられること
- ⑧自由時間に参加できること
- ⑨オープントレフを開くこと

4.3 建物の歴史

現在の建物は2014年に新築されたもので、1980年代頃には、別の場所（現在の建物の近隣にあった職人修行をする人々が住むアパート）で前身となる活動が行われていた。金属加工系の職人が集い栄えた街であるこの地域は、バイエルンなどから若い人が弟子入りのために集まって自助コミュニティを形成していた。次第にコミュニティが大きくなり、地域活動を行う名目で労働者福祉



図 15. ホール



図 16. キリスト教会



図 17. ムスリム教徒用の洗い場



図 18. キッチン付会議室

協会 AWO が参画し、更に 1996 年に stadtteil e.V. が設立・参画した。建物の名前である Lindenhof は菩提樹を意味し、かつての敷地に菩提樹があったことが由来しており、現在の敷地にも菩提樹が植えられている。現在の建物を Der Neue Lindenhof (新しいリンデンホーフ) と呼ぶのに対して、以前の建物は Der Alte Lindenhof (旧いリンデンホーフ) と呼ばれている。現在の建物は、GEWOBA (ゲヴォバ) と呼ばれる建設会社と市の共同体が所有しており、stadtteil e.V. は建物の管理人的役割を担っている。建設費は約 600 万ユーロで、国の未利用土地活用プロジェクトを活用して支援金を得、かつて教会があった場所に新設された。設計はコンペで決められたデンマークの建築家が担当し、建物自体が活動の広告になるように建物の透明感やバリアフリー、傾斜やテラスを用いた景観とのつながりなどが意識された設計となっている。新築された建物は、ノルトライン＝ヴェストファーレン州都市再開発 10 年のコンペにおいて、地区の多様性が美徳にまで高められ、コミュニティセンターのアイデアが実践された点が評価され特別賞「参加賞」を受賞している。

4.4 運営・プログラム概要

多世代の家事業を総括しているのは stadtteil e.V. であるが、6 つの組織それぞれが施設内で独立して活動しながらも協力関係を築いている。多世代の家プログラムは、現在 30 人のボランティアがそれぞれの専門性や背景を活かしながら無償で行われている。担当者によると、ボランティアへの感謝の意を示すため、定期的にお茶会や旅行などが開催されている。

主なプログラムの内容を表 6 に示す。各宗教のイベントや移民支援、アート活動と多彩な活動が行われている。中でも子どものカーニバルは、2 月に行われる 300 人もの子どもが参加する街の大きなお祭りであり、特に大切な活動とされている。40 年の歴史があるこのお祭りは、街の 30 の組織が協力して実施しており、組織間の関係を築く場としても重要な役割を果たしている。以前の建物アルテン・リンデンホーフの時代から引き継いで、当施設がお祭りの拠点となっている。また特徴的なプログラムとして、レムシャイド市に住むアーティストとの協働プロジェクトがある。過去に行われたアーティストと参加者全員でひとつの大きなテントを編むプロジェクトは、親子・シニア世代で教えあいの交流が生まれた活動となった。さらに「街の天使たち」というプロジェクト(図 19) は、街の写真家のアイデアが元になったもので、

街のために頑張っている郵便配達員や教会の牧師、ボランティアの人達等が、アーティストによって制作された天使の羽を背負っている姿を撮影したプロジェクトである。

4.5 今後の展望・課題等

担当者によると、継続した予算の確保が容易ではないとのことであった。施設の運営は、多世代の家からの予算だけでなく、他の機関からの補助金も複数活用されている。資金元としては、市の青年局からの支援金(青少年を助けるプログラム)が大きい。また予算の使い道として人件費が多くを占めており、ボランティア無しでは活動の継続が難しいとのことであった。

今後の展望として、活動を通じて再び地域コミュニティの力を取り戻したいという思いがある。人口・労働

表 6. プログラム内容⁵⁾

●カウンセリング(※無料、電話予約制)
・一般的な社会カウンセリング ・イスラム教徒への移住カウンセリング ・成人移民のためのカウンセリング
●文化
・お祭り(子どものカーニバル、イースター、地区祭り等) ・文化と教会の夜 ・アドベントバザール ・トルコの民俗芸能と合唱 ・ポルトガルの民族舞踊団 ・サズ(トルコの伝統楽器)グループ ・ダンスグループ
●学習・教育
・国際女性カフェ ・言語カフェ ・識字コース
●高齢者ケア
・100 歳まで健康(体操) ・シニアアフタヌーンコーヒー
●その他
・フードシェアリング



図 19. 「街の天使たち」プロジェクトで撮影された写真

力の流出や空き家の増加が顕著であったが、現在では街に若い家族が戻ってきたり、幼稚園が2つ新設されたり、小学校の廃校の危機を免れたり、多世代の家の活動をはじめとしたまちづくりの成果が見られるようになってきている。街のアーティスト招致にも積極的な姿勢を示していた。

また担当者によると、活動の上で心がけていることが2つある。一つは、街に対して異なる視点を持っている役所や政治家との組織的なつながりを大切にするところである。各代表が集まって街の改善点を話し合う機会が月に1度設けられており、このようなつながりの強さが財政の安定につながると同時に、街の課題の現状や今後の方針を具体的に落とし込んでいくことを可能にしている。もう一つは、固定概念を持たず多くの人を受け入れることである。外国人（移民）が抱えている課題やニーズは、かつての街の若い人（ドイツ人）と異なり、ドイツ語のサポートを必要としている。このように時代とともに変化する課題を認識し対応していくことを心がけているとのことであった。

5. 事例 ④ Mehrgenerationenhaus Mittendrin Altenkirchen

訪問日：2024年9月11日

担当者：フラコニー氏、他ボランティア2人

5.1 施設概要

人口3万人程のアルテンキルヒェン群のなかの、人口6,000人程の小さな地区に位置する。アルテンキルヒェンという街の名前は、西暦750年頃に建てられた木造教会に由来している。街の中心部の歩行者専用道路に面するアパートの1階部分を借りて活動が行われており、近隣住民のネットワークの拠点的存在となっている。また、図書館が併設された教会でも活動が行われている。多世代の家の空間的認可基準^{註4)}を考慮すると、数ある多世代の家の中でもかなり小規模な事例であると考えられる。Diakonieというプロテスタント系慈善活動団体が主体となって多世代の家の運営を行っている。当エリアは高齢化が進んでおり、ドイツ人高齢者と移民をルーツに持つ子どもたちという人口構成的な特徴がある。

5.2 多世代の家加入の経緯

2003年に5団体（カリタス、カトリック教会、プロテスタント教会、新しい仕事社会団体、Diakonie）が「社会をより良くしていきたい」という理念の下に協働し、多世代的な活動を始めたのが活動の発端である。その後

表 7. Mittendrin Altenkirchen の概要

所在地	Wilhelmstraße 10 57610 Altenkirchen
施設種別	オープンハウス（offenes Haus）
運営主体	Diakonie
関連主体	カリタス、カトリック、プロテスタント、新しい仕事社会団体
所有	アパートの持主から Diakonie が借用
建築構造	-
施設規模	アパート地上1階部分
延床面積	114m ²
運営開始	2003年
MGH 加入時期	2008年



図 20. 外観写真



図 21. 施設がある歩行者専用道路

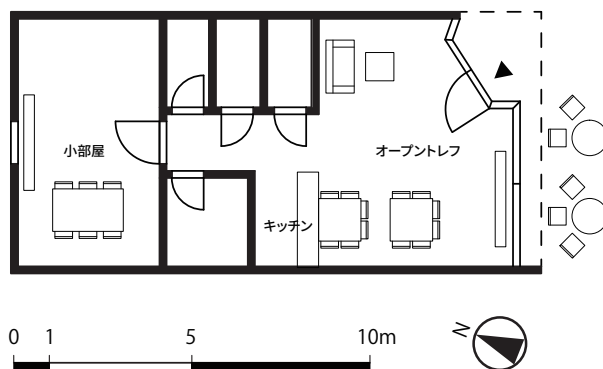


図 22. 平面図

2008年にDiakonieが代表となって多世代の家に加入した。Diakonie自体は1959年から存在しており、身体的困窮・精神的苦痛・社会的に不公平な状況にある人々へのサポート活動を行っている。国家プログラムである多世代の家（Mehrgenerationenhaus）と共に、ラインラント＝プファルツ州のプログラムである「家族の家（Haus der familie）」^{註5）}にも2010年に登録されている。多世代の家と比較し、家族の家プログラムは家族支援に関する活動に予算を使いやすいという特徴がある。担当者によると、申請項目は多世代の家も家族の家もどちらも同じようなものであるが、予算は使い分けされており、多世代の家の予算は多世代交流や高齢者向けプログラムに、家族の家の予算は家族向けプログラムに利用されている。

5.3 建物・利用者の特徴

現在多世代の家の活動で主に使用されているのはアパートの一階部分の2室である。担当者によると、小規模な空間であり活動を行う上で手狭であると感じることがあるため、もう少し大きな空間を探しているとのことであった。しかし、現在の場所が歩行者専用道路に接し、かつ街の中心という好立地にあり、街の人からも「皆さんで使うリビングルーム」として親しまれているため、場所を変えたくないという思いもあるようであった。

利用者は、1日およそ50人程度である。利用者の属性としては、60-70%程の人が近隣からの利用者である。他10-20%程は、10-15km圏のエリアから公共交通機関を利用して、クリスマスなどのイベント開催時に訪れる人である。更には、ワークショップに参加するため30-40km圏ほどの遠方から来る人もいる。

5.4 運営・プログラム概要

「自己価値の決定と振る舞い」をプログラムの理念としており、使い終わったものは自分で片付ける、自分が良き人としての価値を出すための振る舞い、他者を受け入れること、お互いの価値観を共有・尊重することを大切にしている。また活動空間では、アルコール・ニコチン（タバコ）・薬物を使用しないというルールがある。

主なプログラムの内容を表8に示す。オープントレフとしてカフェ（飲食の提供）は行っていない代わりに、1日を通じて多くのプログラムが用意されている。その中でも特徴的なプログラムとして、教会の庭で行う養蜂がある。採れたはちみつは売り物ではなく、プレゼントなどに利用されている。また演劇プログラムでは、教会の祈りの時に寸劇を地域の人に披露している。街や平和、

聖書等をテーマにしており、ボランティアの人が作家を担当している。

これらのプログラムの実施には35-40人程のボランティアが携わっている。有給で働くフリーランス契約の人も数人おり、中にはジョブセンターから派遣され、1時間1ユーロで働く代わりに仕事の履歴づくりをする人もいる。また、高校生の実習や社会活動年^{註6）}を利用した若者などがボランティアに来る場合もある。

5.5 今後の展望・課題等

担当者によると、教会は常に地域に開いた存在であり、困りごとを相談できる場所であることが大切であるとのことであった。この施設が、時代の変化とともに地域に与える影響が弱まってしまった教会の代わりに「困り事



図 23. 活動に使われているプロテスタント教会

表 8. プログラム内容⁶⁾

●創作・共同	●家族
・みんなで卓球 ・ボードゲーム ・エクササイズ＋朝食 ・編み物グループ ・ハッピーファミリーアワー（ゲーム） ・演劇 ・チェスサークル ・クラフトの会 ・読書会 ・教会の養蜂 ・高齢者連合（政治問題に関する討論会） ・高齢者支援 ・市場の朝食会 ・アフタヌーンカフェ ・架け橋（障害の有無関係ない出会い） ・おばあちゃんは右翼に反対（政府推奨でドイツ全土で実施されているプログラム）	・家族問題を話し合う会合 ・家族料理教室 ・家庭教師プロジェクト
●テクノロジー・環境	●イベント（※2025 月 2 月公開時点）
・ゴミ収集 ・リペアカフェ（機器の修理） ・古本マーケット	・映画鑑賞とディスカッション（利用者のリクエストから映画選定） ①“Unsichtbar”「目に見えない」（テーマ：精神疾患と薬物依存） ②“Du gehst und ich bleibe”「あなたが逝く、私が残る」（テーマ：認知症パートナーとの離別）
●カウンセリング・教育	・育児講座 ・消費者破産ワークショップ ・防災イベント ・文化旅行（博物館訪問） ・イースターカフェ ・介護と認知症をテーマにした朝食会 ・家族の日（国際家族デー） ・孤独を乗り越える（デジタルサポートや手紙を書くこと等を通じて交流する）
・法律相談（弁護士のボランティア） ・デジタル機器サポート ・勉強カフェ（履歴書の添削等） ・介護相談 ・障害に関する相談 ・肥満相談 ・胎児性アルコール症候群の自助グループ ・精神障害者親族の自助グループ 等	

を相談できる場所」を提供する場にするを大きな目標として掲げている。そのような地域背景もあって、ボランティアを主体としたプログラム運営がなされていると思われる。またボランティアの方によると、利用者だけでなくボランティアにとっても、自分の専門性を発揮できる機会があることで、自分の生きがいになっているとのことであった。

6 まとめ

本稿では、デュッセルドルフを中心とした、ノルトライン＝ヴェストファーレン州、および隣接するラインラント＝プファルツ州におけるドイツ連邦政府プログラム多世代の家4事例を取り上げ、それぞれの地域特性に応じた運営やプログラムの特色、施設計画について概観した。どの事例においても、様々な年代・信仰・出自を超え、地域の実情や課題に対応し、特色あるプログラムが実施されている。

デュッセルドルフ郊外の住宅地に位置する事例① SOS-Kinderdorf Düsseldorf は、周辺施設のファミリーホームや青少年センターを活用し、子どもと家族を中心とした支援を地域へ展開している。多世代の家への加入により、高齢者が参加しやすくなり世代間交流を活性化するとともに、雇用を通じて労働世代の社会的孤立の防止が実践されている。

ドルトムントの事例② Mehrgenerationenhaus Mütterzentrum Dortmund は、もともと母親同士の助け合いを目的とした施設であったが、多世代の家加入後、事例①と同様高齢者の参加も増加し、世代間交流の場として発展している。行政との連携が強く、市が所有する建物が無償で利用し、青少年局と協力して親子支援を行うなど、子育てをする女性を中心に、社会的支援の窓口として機能している。

金属加工の街レムシャイド市の事例③ Der Neue Lindenhof Mehrgenerationenhaus は、職人の師弟関係をもとに形成されたコミュニティを引き継ぎつつ、新しい地域コミュニティ形成のためのハブとして機能している。アーティストと協働したアートを活かすプログラムが特徴的である。また移民のドイツ語学習へのサポートをはじめとした、地域の人口構造の変化を踏まえたプログラムが展開されている。

高齢化の進む過疎地域に位置する事例④ Mehrgenerationenhaus Mittendrin Altenkirchen は、小規模でありながらも地域コミュニティの日常的な拠点

として重要な役割を果たしている。教会と関係の深かった地区において、時代の変化とともに地域との連携が弱まってしまった教会の代わりに「困り事を相談できる場所」を提供する役割をボランティアを中心に担っている。

謝辞 本研究にご協力いただきました皆様に、篤く御礼申し上げます。なお、本報告のための調査は、(22H01668)「ケア中心型社会の基盤となる持続的な「共在の場」とケアの関係構築に関する包括的研究（研究代表者：山田あすか）」の一環として行われました。

註

- 1) e.V. は eingetragener Verein 登録社団（登録された任意団体）の略で、日本語に対応するのは「社団法人」。
- 2) 地域の人なら誰でも申込無しで来ることが出来る、地域に開かれた場所
- 3) Prager Eltern Kind Programm（ブラハ親子プログラム）の略
- 4) 2023年度の助成ガイドライン資料に示された多世代の家認可基準に基づく。空間的には、最低2室と合計60m²の面積と、最低1室のオープントレフ（週に20時間以上の開放）が設置条件となっている。
- 5) 集会、ケア、教育、社会統合、社会参加等を促すバリアフリーなサービスの提供を行う、多世代の家と類似した取組。ラインラント＝プファルツ州では51事業が登録されている。登録の大半は多世代の家（Mehrgenerationenhaus）に組み込まれている。⁷⁾
- 6) 社会活動年 Freiwilliges Soziales Jahr; FSJ：連邦政府が実施している義務教育を修了した27歳未満を対象とした社会奉仕活動に関する法律。福祉現場での活動を通じて、専門知識・技術を学ぶと同時に、福祉体験や指導を通じた人格形成を目指すことを目的としている。^{8) 9)}
- 7) 2021年にドイツ統計局より公開された2011年国勢調査に基づく1kmあたりメッシュ人口を用いて5kmメッシュ人口を作成。

参考文献

- 1) “Georeferenzierte Bevölkerungszahlen”. <https://www.statistikportal.de/de/veroeffentlichungen/georeferenzierte-bevoelkerungszahlen>, (最終閲覧：2025/02/28)^{註7)}
- 2) Haller, Thomas. “Bevölkerungsstatistik 2023:Düsseldorf wächst weiter”. Düsseldorf Nae trifft Freiheit. <https://www.duesseldorf.de/medienportal/pressedienst-einzelsicht/pld/bevoelkerungsstatistik-2023-duesseldorf-waechst-weiter>, (最終閲覧：2025/02/14)
- 3) “Willkommen im SOS-Kinderdorf Düsseldorf”. <https://www.sos-kinderdorf.de/kinderdorf-duesseldorf>, (最終閲覧：2025/02/28)
- 4) “Mütterzentrum Dortmund e.V.”. <https://muetterzentrum-dortmund.de/>, (最終閲覧：2025/02/28)
- 5) “Stadtteil e.V. Stadtteil Sozialarbeit in und für den Stadtteil “. Der Neue Lindenhof. <https://der-neue-lindenhof.de/stadtteil-e-v/>, (最終閲覧：2025/02/28)
- 6) “Angebote”. Mittendrin. <http://www.mgh-ak.de/seite/433659/angebote.html>, (最終閲覧：2025/02/28)
- 7) “Häuser der Familie”. Rheinland Pfalz. <https://mffki.rlp.de/themen/familie/gute-zukunft-fuer-alle-kinder-und-eltern/orte-der-begegnung/haeuser-der-familie>, (最終閲覧：2025/02/27)
- 8) “Freiwilliges Soziales Jahr – FSJ”. BUNDES FREIWILLIGENDIENST.DE. <https://www.bundesfreiwilligendienst.de/fsj-freiwilliges-soziales-jahr/>, (最終閲覧：2025/02/27)
- 9) “調査対象国ごとの要約”. 文部科学省. https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo2/siryou/011002/001/german.htm, (最終閲覧：2025/02/27)